永利のオガタマノキ

【所　在　地】薩摩川内市永利町石神 106 － 1
【種　　別】国指定天然記念物
【指定年月日】昭和 19 年 11 月 13 日

オガタマノキはモクレン科オガタマノキ属の常緑高木で，樹皮や葉，花に芳香があることから別名ダイシコウ（大師香）ともいい，本州南部から四国，九州，沖縄，台湾の照葉樹林帯に分布している。葉は長楕円形で厚くつやがあり，３月頃白い花を咲かせる。昔から神社にゆかりの深い樹木で，和名のオガタマとは「招魂」から転化したものといわれ，玉串として用いられるなど神社には欠かせないものとされてきた。

ここ薩摩川内市永利町石神神社境内のオガタマノキは，樹高約 22m，胸高周囲 6.7m，根回り 10.89m，推定樹齢は約 800 年で，長崎県小長井町のオガタマノキとともに日本における大樹の双璧といわれる木である。以前，幹の上方に着生していたフウトウカズラやオオイタビを除去した後，樹勢が衰えてしまったが，平成７，８（1995，1996）年度にオガタマノキ樹勢回復事業で枯れた大枝を切除し，防腐処理や土壌改良などの整備事業が行われ，樹勢の回復を図っている。